

卓球競技実施要項

1 競技方法

競技規則は、(公財)日本卓球協会制定のルール及び(公財)日本障害者スポーツ協会編「全国障害者スポーツ大会競技規則」に準ずる。

(1) 知的障害者の部

試合は全てシングルスとし、性別、組合せ毎にリーグ戦方式またはトーナメント方式とする。
ただし人数の都合によってはトーナメント方式で実施する。

(2) 身体障害者の部

ア 試合は全てシングルスとし、性別、各障害区分ごとにリーグ戦方式またはトーナメント方式で実施する。

イ 3位決定戦は行わない。(3位は2人とする。)

ウ サウンドテーブルテニスに出場する選手のアイマスクは、感染症対策のため、各自で用意し、試合までに主催者の許可をとること。

エ 下肢障害者で義肢、松葉杖等を使用する者は、特に支障のない限り、接触面にあてがう布、カバー等をあらかじめ用意すること。

(3) 精神障害者の部

試合は全てシングルスとし、性別、組合せ毎にリーグ戦方式またはトーナメント方式で実施する。

(4) 共通項目

ア 試合は5ゲームス・マッチとし、3ゲームを先取した方を勝ちとする。

イ 1ゲームは11点を先取した方を勝ちとするが、10オール(10対10)になった時は、同得点の後2点連続先取した方を勝ちとする。

ウ サウンドテーブルテニスは、5ゲーム形式とし、3ゲームを先取した方を勝ちとする。ただし、1ゲーム11点を先取した方を勝ちとするが、10オール(10対10)になった時は、同得点の後2点連続先取した方を勝ちとする。

エ 試合球は、硬式球40ミリ(ホワイト)を使用する。STTは40ミリ(オレンジ)を使用する。

オ 正規のサービスが困難と主審が認めた選手に限り、プレーイングサーフェスにボールを落としてから打球しても良い。

カ プレー中にフリーハンドがプレーイングサーフェスに触れても相手のポイントにはならない。

キ 故意に卓球台を動かした場合、相手のポイントとする。

ク エンドとサービスの選択は、ジャンケンにより決定する。

ケ ベンチ入りできるコーチは1名までとする。

コ ゼッケンは背部にしっかりと貼り付けること。

2 服装及び用具

(1) ユニホーム及びラケットに使用できる色は、(公財)日本卓球協会制定のルールによるものとする。

(2) 出場する選手は、競技用具(ラケット、シューズ等)を各自持参すること。

(3) 競技場内に入る役員は、体育館シューズを各自持参すること。

3 表彰

各種目組ごとに競技終了後行う。参加者にメダルを授与する。

4 その他

開始式 9時半(予定) 競技開始 10時(予定)